

1 単元名 第3学年 16 □を使った式 (大日本図書)

2 単元の目標

- 未知の数量を記号の□を用いて表し、数量の関係を式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。
 - ・ □を用いると式表示が容易になり、数量の関係が明確になることを理解し、□を用いて式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。【知識及び技能】
 - ・ 具体的な場面を通して、未知の数量を□として式表示し、数量の関係を捉えたり、□に当てはまる数の求め方を考えたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
 - ・ □を用いると式表示が容易になり、数量関係が明確になるというよさに気づき、学習に生かそうとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 指導内容の系統 (A 数と計算)

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
19 ずをつかって かんがえよう ・順序数の加減法など	14 たし算とひき算の かんけい ・逆思考の問題	16 □を使った式	5 式と計算 ・()を使った式、四則混合式 ・○、△、□を用いて計算法則を式に表すこと	3 2つの量の変り方 ・□や△を用いて数量の関係を式に表す (C「変化と関係」)	4 文字を使った式 ・x、yを使った式

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数量の関係を表す式について理解しているとともに、数量を□などを用いて表し、その関係を式に表したり、□などに数を当てはめて調べたりすることができる。	数量の關係に着目し、数量の關係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりしている。	数量の関係を表す式に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。

5 単元の指導と評価の計画

●指導に生かす評価 ○記録に残す評価

時	ねらい(◆) 主な学習活動(①, ②…)	指導上の主な留意事項	評価		
			知技	思判表	態度
1	◆具体的な場面について、加法で表される数量関係を□を用いて式に表し、□に数を当てはめたり、線分図を用いたりして、□に当てはまる数を求めることができる。 ① 単元の学習内容を知り、見直しをもつ。 ・お話の通りに場面を式に表すことを学ぶんだな。 ② 問題場面を把握する。 朝、ひよこが15羽いました。夕方見てみると、何羽かふえていました。このお話の場面を、式に表しましょう。 ③ 課題と出口までの見直しを全体で明らかにする。 ④ 自分の考えをつくる。(必要に応じて個々に交流) ・言葉の式、線分図に表せないか。 ・ふえた数を□羽としたらどんな式になるか。 ⑤ 全体で練り上げる。 ⑥ まとめる ・わからない数を□とすれば、場面を式に表すことができる。 ⑦ 評価問題、適用問題に取り組む。 ⑧ 学びを振り返る。	ICTの活用 ※【Gウェブ】…NEW!GIFUウェブラーニング	●		
	① 教科書を見ながら単元の全体像を見直し共有する。 →単元の出口でできるようになったことを確認する。 ④ 友達の考えを理解し、自分の考えを振り返るよう促す。 ⑤ 式は、答えを求めるためだけでなく、場面を表すこともできることを確認する。(15+□) ・「15+□=21」の□に当てはまる数が求められることを、教科書の <u>ゆうと、クレアの吹き出し</u> から考える。 ②p.221の2次元コードから、話の場面を動画で確認する。 必要に応じて個々に繰り返し視聴する。 ④協働学習支援ツールで、考えを共有する。 ⑦【Gウェブ】評価問題前に、チェック&スタディに取り組み、理解の状況を児童が個々に確認する。(橙1, 橙2) →タブレットPCでリアルタイムに把握し、即時的に支援する。 ⑦【Gウェブ】本時の評価問題(「あと4問」)→即時的に支援する。 ⑦【Gウェブ】適用問題に取り組む。				
2	◆具体的な場面について、減法で表される数量関係を□を用いた式に表し、□に数を当てはめたり、線分図を用いたりして、□に当てはまる数を求めることができる。 ① 問題場面を把握する。 おり紙が何まいかあります。8まい使ったので、のりが16まいになりました。この場面を式に表しましょう。また、はじめにあったおり紙の数は何まいですか。 ② 課題と出口までの見直しを確認する。 ③ 自分の考えをつくる。(必要に応じて個々に交流) ④ 全体で練り上げる。 ・何を□で表したか。 ・□に当てはまる数をどのように求めたか。 ⑤ まとめる ・ひき算のお話も□を使った式に表せる。 ⑥ 評価問題、適用問題に取り組む。 ⑦ 学びを振り返る。	② 前時の解決の過程、□を用いて立式したことを振り返り、減法にも生かせないか考え、見直しをもつ。 ③ 何を□で表しているか、文脈通り立式できているか、友達に話す中で自分の思考を整理・修正する。 ③【Gウェブ】前時の取り組み結果から、支援する児童を想定する。 ③児童の必要に応じて、話を線分図で表す過程を動画で確認する。 ③協働学習支援ツールで、考えを共有する。 ⑥【Gウェブ】評価問題前に、チェック&スタディに取り組み、理解の状況を児童が個々に確認する。(橙3, 橙4) →タブレットPCでリアルタイムに把握し、即時的に支援する。 ⑥【Gウェブ】本時の評価問題(「あと5問」)→即時的に支援する。 ⑥【Gウェブ】適用問題に取り組む。	●		

3	<p>◆具体的な場面について、乗法で表される数量関係を□を用いた式に表し、図を用いたりして、□に当てはまる数を求めることができる。</p> <p>① 問題場面を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 同じねだんのあめを6こ買ったら、代金は42円でした。この場面を式に表しましょう。また、あめ1このねだんは何円ですか。 </div> </p> <p>② 課題と出口までの見通しを確認する。 ・文脈に沿って数直線の図とテープ図に表す方法を理解する。</p> <p>③ 自分の考えをつくる。(必要に応じて個々に交流)</p> <p>④ 全体で練り上げる。 ・かけ算の式になる根拠はなにか。 ・□に当てはまる数をどのように求めるか。</p> <p>⑤ まとめる ・かけ算のお話も□を使った式に表せる。</p> <p>⑥ 評価問題, 適用問題に取り組む。</p> <p>⑦ 学びを振り返る。</p>	<p>② 除法を表すテープ図と数直線の図を合わせて作成することは初めてであるため、目的と図の見方を伝える。</p> <p>④ 言葉の式, 図を関連させ, □を使ったかけ算の式になることを確認する。 ・□に当てはまる数をりな, つばさの吹き出しから考え, わり算で求める方法, かけ算の式から見当を付けて求める方法を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>②文脈に沿って図に表す過程を動画で確認する。</p> <p>④【Gウェブ】【あと5問】を使って、テープ図と数直線の図の書き方を指導する。</p> <p>⑥評価問題 ※図をかき, □を使って立式する問題 ※ワークシートに書いてデジタルデータで提出する。 → 提出(定着)状況を見て即時的に支援する。</p> <p>⑥【Gウェブ】適用問題に取り組む。</p> </div>	●
4	<p>◆具体的な場面について、除法で表される数量関係を□を用いた式に表し、図を用いたりして、□に当てはまる数を求めることができる。</p> <p>① 問題場面を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 3年2組の全員を5つのはんに分けたら、1はん7人ずつになりました。この場面を式に表しましょう。また、3年2組の人数は何人ですか。 </div> </p> <p>② 課題と出口までの見通しを確認する。</p> <p>③ 自分の考えをつくる。(必要に応じて個々に交流) ・文脈に沿って数直線の図とテープ図に表す。</p> <p>④ 全体で練り上げる。 ・わり算の式になる根拠はなにか。 ・□に当てはまる数をどのように求めたか。</p> <p>⑤ まとめる ・わり算のお話も□を使った式に表せる。</p> <p>⑥ 評価問題, 適用問題に取り組む。</p> <p>⑦ 学びを振り返る。</p>	<p>④ 言葉の式, 図を関連させ, □を使ったわり算の式になることを確認する。 ・□に当てはまる数をカルロス, りなの吹き出しから考え, 図をもとに求めたり, かけ算をたよりに□の数を見当をつけたりできることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>①支援を要する児童に対して、教科書の2次元コードから「学習のサポート」(動画)を視聴することを勧める。</p> <p>⑥【Gウェブ】評価問題前に、チェック&スタディ(橙9, 橙10)</p> <p>⑥評価問題【p.227 旗5】 ※式が□÷3=8になるお話づくりとその答えづくりをする。 ※ワークシートに書いてデジタルデータで提出する。</p> <p>⑥【Gウェブ】適用問題に取り組む。</p> </div>	○ ○
5	<p>◆基本的な学習内容を理解しているか確認し、習熟することができる。</p> <p>① 教科書p.228「たしかめ問題」に取り組む。</p> <p>② NEW! GIFUウェブラーニングの「私の学習状況」をもとに、選択して学ぶ。 →「単元まとめの練習」 →教科書p.213 チャレンジ!</p> <p>③ 令和6年度全国学力・学習状況調査の「算数I(2)」に取り組む, 定着を確認する。</p> <p>④ 単元の学びを振り返る。 ・単元の学習を通してできようになったことを確認する。 ・自分の学習の仕方ではよかったことや「もっと○○したい」ことを書き出す。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>②【Gウェブ】「私の学習状況」をもとに、児童が選択して学ぶ。 ○「単元まとめの練習」 ○教科書p.213 チャレンジ!</p> <p>④デジタルデータで提出する。 ※評価の資料にするとともに、童が振り返ることができるよう、記録として残す。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>たくみさんは、はじめにおり紙を何まいもっていました。ゆうまさんから38まいもらって、62まいになりました。このことを、たくみさんがはじめにもっていたおり紙のまい数を□まいとして式に表しましょう。</p> </div>	○ ○
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1時の始めは、教科書を使って単元の学習の全体像を見通しを伝えたり、既習の単元とのつながりを知らせたりする。 ・授業の初めに出口の姿(何ができるようになるのか)を見通す場を設定する。 ・「③自分の考えをつくる。」において、友達や教師に聞きに行く等、個々の必要に応じて学び方を選択できるようにする。 ・協働学習支援ツールによって、自分の考えを仲間と即時共有できるようにしておく。 ・目的をもって情報収集・交流する力を付けるために、関わった友達から評価をもらうことや聞き取ったことを自分のノートに書き加える(修正する)ように声掛けと場の設定をする。 ・個別の交流によって個々が深めること、教師の働きかけによって全体で深めることを計画しておく。 ・評価問題の前に「チェック&スタディ」に取り組ませる。 ※教師は、事前に各出題内容と予想されるつまづきをつかみ、本時のねらいに即して支援の必要な児童を見極め支援する。 ※児童は自分の学びの状況を確認し補う。 ・単元末の見届けとして、全国学力・学習状況調査の問題に取り組ませるとよい。 			